

どこまで とんでいくのかな？



とんでとんでサンフランシスコ

ドン・フリーマン さく やました はるお やく BL出版 Eーフ

サンフランシスコにある高いビルの屋上に看板がありました。看板のBの文字には、雄の灰色バトのシッドが住んでいました。ある日、シッドは雌の白色バトのミッジをBの字の住みかにまねき、いっしょに巣をつくりはじめます。数週間後、卵をあたためているミッジを巣にのこしてシッドが公園にいったあと、おそろしい出来事がおきました。

ニルスが出会った物語1 まぼろしの町

セルマ・ラーゲルレーヴ 原作 菱木 晃子 訳／構成 福音館書店 949ーラ

いたずら好きのニルスは、ある日妖精の魔法で手のひらほどの小人にされてしまい、ガチョウの背中にのって空の旅にでることになりました。おだやかな満月の夜、島にいたニルスは、コウノトリにつれられ、だれもない砂浜におりたちます。そこにおちていた古びた銅貨をニルスがけとばすと、そのとたん海の上にはりっぱな城壁があらわれました。

みどりの小鳥 イタリア民話選

イタロ・カルヴィーノ 作 河島 英昭 訳 岩波書店 973ーカ

むかし、王さまのひとり娘が、継母にねたまれ森の奥の城に閉じこめられてしまいました。ひとりぼっちで窓辺から空や小道をながめてすごしていると、ひとりの王子が通りかかり、やがて王子と娘は愛しあうようになりました。遠くはなれて愛しあうふたりをかわいそうに思った魔女は、娘に魔法の本をとどけます。娘が本のページをめくると、たちまち王子はカナリアになり娘のほうへ飛んできました。(『カナリア王子』)

ナイチンゲール

H・C・アンデルセン 原作 角野 栄子 文 太田 大八 絵 小学館 E-オ

むかし、中国にいた皇帝の宮殿の庭には、歌声がすばらしいナイチンゲールという鳥がすんでいました。しかし、皇帝はナイチンゲールの声をきいたことがありませんでした。そこで、「ナイチンゲールをつれてきて、わしの前でうたわせるように」とだいじんに命令しました。

鳥は恐竜だった 鳥の巣からみた進化の物語

鈴木 まもる 作・絵 アリス館 488-ス

恐竜から進化したといわれる世界中の鳥は、巣をつくり、卵をうみ、ヒナを育てます。キムネコウヨウジャクの巣は人間のお母さんのおなかの形にしています。どうしてこんな形の巣をつくるのでしょうか。巣や卵と、子育てのちがいをしらべると、進化のふしぎの扉をあける、秘密のカギだったのです。

にわとり城

松野 正子 作 こぐま社 913-マ

にわとりをいっぱい飼っていたおひゃくしょうが死んで、のろまなむすこがひとりでせわをしていました。そのうち、えさをかうお金も自分の食べるものもなくなったむすこは、のこっていた五羽をにがして、世の中へたびにでることにしました。ところが一羽のめんどりだけが、ひよこひよこことむすこについてくるのです。

ぼくとくらししたフクロウたち

ファーレイ・モワット 作 稲垣 明子 訳 評論社 933-モ

ビリーは前からフクロウをペットにしたいと思っていました。ある年の春、ビリーはフクロウの中でいちばん大きい種類のミミズクのひなを二羽飼うことになります。ひなたちが大きくなると、ビリーは飛びかたを教えました。飛べるようになったミミズクは、土手に住むスカンクをつかまえますが、そのすさまじいにおいに隣近所から苦情がきてしまいます。